

## 第 48 回インナーゼミナール大会

### 研究計画書

<b>ゼミ名</b>	森本ゼミ II	<b>チーム名</b>	よつき
<b>タイトル</b>	アジア都市間競争		
<b>テーマ群</b>	d) 国際経済、e) 産業・企業		
<b>メンバー</b>			
<b>研究計画内容</b>	<p>[研究対象]</p> <p>私たちが兵庫県の中心は神戸。関西の中心は大阪。そして日本の中心は東京です。それではアジアの中心はどこだろうか？50 年前は高度経済成長期であった東京があげられるだろう。しかし、現在はシンガポール・香港・上海などアジア各国の台頭が著しい。ここ最近のアジア地域の地域 GDP と消費者需要の成長率が優れていることで、この地域の戦略的重要性を高めているグローバル企業がたくさんあることが台頭の要因になる。そこで、グローバル企業が集まる国際都市とは？そして、グローバル企業が地域本部を選ぶ基準にはどのようなものがあるのか、国際都市が抱える不安要素などを研究・分析する。</p> <p>[研究目的]</p> <p>現在の東京は？なぜアジア地域の国際都市は急速に成長してきたのか？そして東京の将来はどうなるのか？都市が発展する理由と企業が拠点を定める基準、各都市が実施している諸政策・規制などがわかれば、東京の将来を占うことができる。これによって、今後東京が企業に選ばれるようになる戦略を定める大きな手掛かりになることが期待できる。</p> <p>[研究方法]</p> <p>本研究では、「European Business in China Asia-Pacific Headquarters Study」と「Global city connectivity and the establishment of MNC regional headquarters」の2つの先行研究を資料とする。これらの資料から地域本部設立にあたって重要な点は何か？拠点となる都市どのような戦略・インセンティブを設けているのか？を集積理論（藤田昌久/ジャック・F・ティス）を使って解釈し、今後東京が実行すべき道を予想してみる</p>		